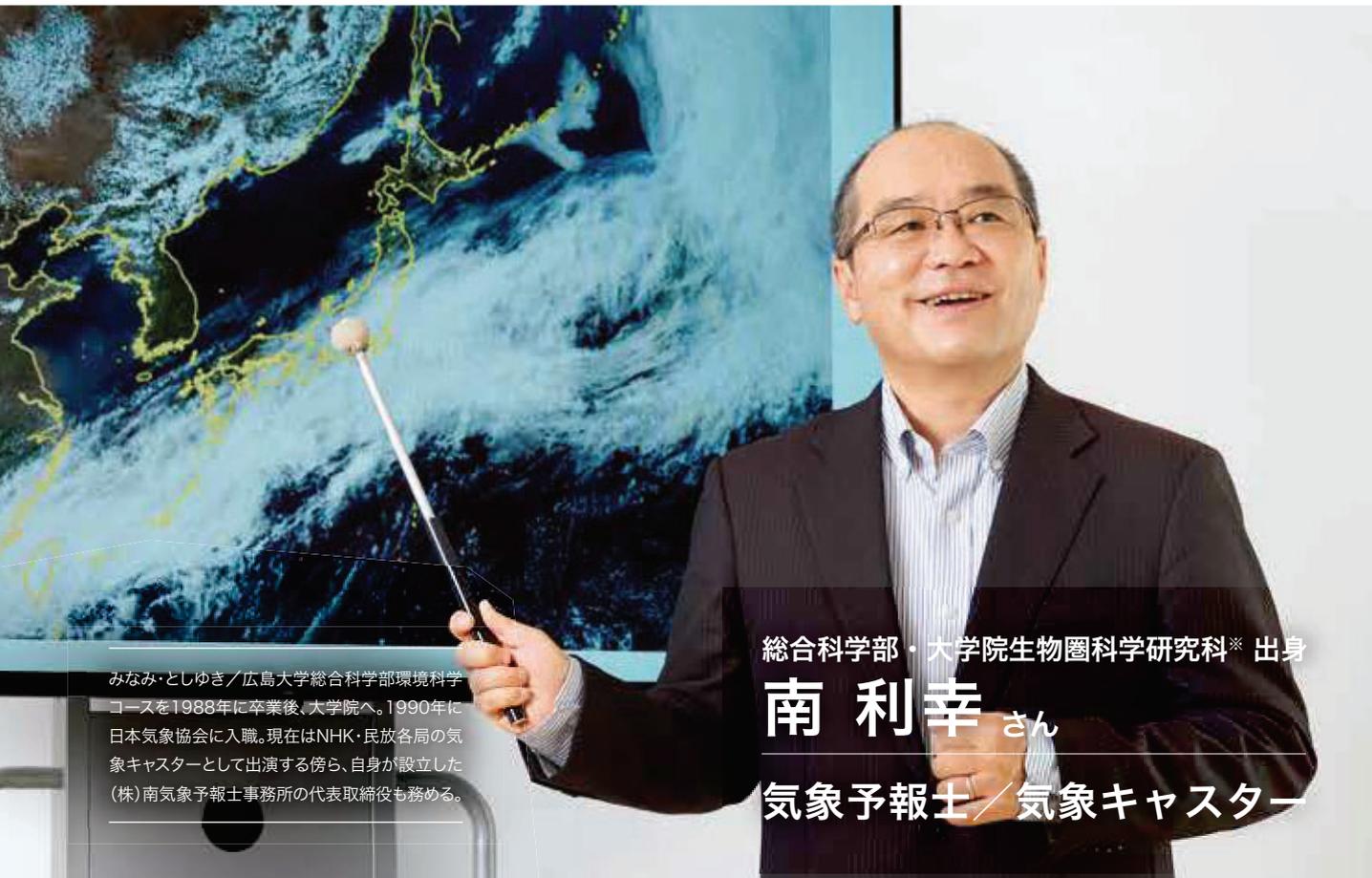


大 ぞす

広島大学を卒業・修了後、各業界で活躍されている卒業生の方々に、
現在のお仕事と大学時代を語っていただきました。



みなみとしゆき / 広島大学総合科学部環境科学
コースを1988年に卒業後、大学院へ。1990年に
日本気象協会に入職。現在はNHK・民放各局の気
象キャスターとして出演する傍ら、自身が設立した
(株)南気象予報士事務所の代表取締役も務める。

総合科学部・大学院生物圏科学研究科※ 出身

南 利幸 さん

気象予報士 / 気象キャスター

※ 現 大学院統合生命科学研究所

データ収集に 気象台へ通った学生時代

学生時代は毎日のように気象台へ赴き、地道に研究のための観測データを集めました。オンライン資料が充実する今の時代にはすっかり不要となった作業ですが、現地の環境を体感できたことで、数値から天気を再現し予測する想像力を育む良いきっかけになりました。

また、地質や植生などあらゆる分野の専門家から自然科学を学べたのも総合科学部ならではの。当時の学びのおかげで、豪雨の時には土砂崩れの危険性などを的確に伝えられます。今でも広島大学の先生方に質問することはしばしば。「広大のOBです」とお伝えすると、親身にご協力いただけるのは卒業生の特権です。

大学院修了後は日本気象協会へ入職、気象キャスターとしての活動をスタートしました。当初痛感したのは、話を聞いてもらうことの難しさ。一方通行になりがちな天気予報に興味を持ってもらうため、毎日試行錯誤を繰り返しました。

空模様と視聴者の日常をつなげる醍醐味

そしてある時、番組共演者からダメだが。「お前の天気予報にはオチがないんだよ」。この一言に衝撃を受け、単調な天気予報にオチをつける努力を始めました。通勤時にメモした周囲の人の会話や服装、持ち物を会話の種にしてみたり、時に駄じゃれを交ぜてみたり。そうして共演者との会話を意識すると、自然と周囲が乗り気になり、結果的に視聴者

からの反応も良くなったのです。

気象キャスターの仕事は、空模様と視聴者の日常をつなげること。これからも思わず聞き入ってしまうような天気予報を心がけます。また、数年前からは(株)南気象予報士事務所(兵庫県西宮市)を立ち上げ、後進育成にも尽力中。気象キャスターを目指す若い世代に、メディア出演を通して学んだ気象情報のノウハウを伝えていきます。

広大のここがええね!

在学中は「東雲バスケットボールサークル」で毎日汗を流しました。県リーグにも出場するほど熱心なサークルで、当時チームをリーグ2部から1部へ導けたのは良い思い出です。